

國學院大學學術情報リポジトリ

第2回国学研究会

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001811

第2回国学研究会

日本文化研究所研究事業『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」では、平成23年11月2日（水）から4日（金）にかけて、金沢市における史料調査を行うとともに、11月3日（木）午後第2回国学研究会を開催した。以下、その概略について報告したい。

1. 史料調査

今回の史料調査は、加賀藩を対象として、国学者の地域拠点および当該藩の神社政策研究のための史料を収集することを目的とするものである。加賀藩は、田中躬之、河内盛征、石黒千尋といった気吹舎門人を輩出したことで知られており、なかでも藩校明倫堂で国史講釈を行った石黒千尋については、著述において開国・交易の必要性を説いている点が注目されてきた。しかし、そうした議論の背景となる彼の思想の全容や、石黒の議論が周囲に与えた影響をより深く考察するためには、藩や地域の状況を踏まえた検討が要請される。このことは、石黒を研究対象にした場合だけでなく、加賀藩における国学者の存在形態を考える際には常に当てはまる。近年、加賀藩に関する研究が活性化しつつあるが、国学者や神社政策に関する研究では必ずしも満足な成果を得られていない。今回の史料調査ではこれらの領域に関する史料調査を行い、その成果にもとづいて今後他の藩や地域を視野に入れて加賀藩における国学者や神社政策の位置付けを図ることによって、国学者・神社政策一般に対する理解を深めることが可能になる。

史料調査に先立って、研究事業のメンバーは加賀藩の宗教政策について、事前に古谷易士（作業協力者）による報告にもとづく内容の検討会を行った。

実際の史料調査は、11月2日午後、3日午前、4日全日に金沢市立玉川図書館近世史料室にて行われた。参加メンバーは、遠藤潤、松本久史、小田真裕、小林威朗である。この調査では、玉川図書館近世史料室内の加越能文庫に含まれる近世藩制史料のうち、寺社関係史料である「寺社方御条目帳」「御領国諸神主組合之事」「延宝年中加越能社寺来歴」「持宮等争論一卷」「加賀国神社録」「神仏混淆調理方留帳」などの史料、および加賀藩に関係する国学者、すなわち石黒千尋、狩谷鷹友らによる著述などについて、実物の調査およびデジタルカメラによる撮影を行った。今回対象とした史料のうち、寺社関係史料には、近世加賀藩の寺社政策の具体的なあり方を明らかにするものが多く含まれていた。また、加賀藩に関わる国学者の関係史料では、その思想内容について直接記述したものばかりでなく、蔵書形成に関わる史料も見出され、今後、当該国学者の思想形成については多角的に検討することが可能になった。

2. 第2回国学研究会

今回の史料調査にあわせて、史料調査参加者ならびに対象とする地域の国学者に詳しい一戸渉（金沢大学准教授）および三ツ松誠（ともに共同研究員）を交えて、当地で第2回国学研究会を開催した。その内容について、以下報告したい。

日時：平成 23 (2011) 年 11 月 3 日 (木)
15:00-17:30
場所：金沢大学サテライトプラザ (金沢市
西町三番丁 16 番地 金沢市西町教
育研修館内)

報告者：

一戸 渉「北陸の国学」
小林威朗「国学者の対外認識から見
る世界観と教化思想」
小田真裕「加賀藩国学者石黒千尋の
対外認識 —『来舶神旨』
を中心に—」
松本久史「国学関係人物データベ
スに見る加賀の国学者」

一戸は「北陸」の示す具体的な地域として、越中、若狭、越前、越後を取り上げ、それぞれの地域で代表的な国学者について説明した。越中では、礪波今道、富田美宏、五十嵐篤好らをあげた。若狭・越中では橘曙覧や伴信友、越後では生田万らを取り上げて、各学者の活動について説明した。論点としては、それぞれの学者が江戸を指向しているか、京都を指向しているかなどの点が、その学問の性格を考える上で重要であると指摘した。また、それぞれの地域の中心となる学者がいたのかどうかについても検討の余地があるとした。

小林は、対外意識に関して論じている国学者・神学者を比較的網羅的に取り上げ、その中で加賀の国学者である石黒千尋の対外観がどのような特徴を示すのか明らかにしようと試みた。谷川士清、本居宣長、服部中庸、塙保己一、平田篤胤、大国隆正、平田延胤、久保季茲のそれぞれについて、対外意識を論じる際に特徴的な点を指摘した上で、石黒千尋『来舶神旨』の内容を説明し、石黒に関する先行研究に対して、再検討を行った。

小田は、これまで書物研究の視点から石黒千尋に注目し研究を進めてきたことを前提として、石黒の対外意識について、その意識にまつわるプロセスのさまざまな局面について検討することが必要だとする問題意識に立ち、彼の著述のみならず受容した知識・情報の総体を把握することを試みた。石黒の著述のうち『来舶神旨』や『近世諸蕃来舶集』の内容を説明した上で、『来舶神旨』の情報源について論じた。

松本は、研究開発推進センターで作成している「国学関連人物データベース」に掲載されている加賀国国学者を包括的に示し、それぞれの人物の概略や活動時期について示した。

(遠藤 潤)